

## 5月18日に ぱれっとで記念講演と総会

記念講演 水度神社の由来と近江水度天神宮との深い繋がり（きっかけから現在まで）

## 36人が参加、交流深める

2025(r07)年度の総会を5月18日(日)1時半からぱれっとJOYOで行いました。総会に先立って記念講演が行われ、水度神社の水田宮司が「水度神社の由来と近江水度天神宮との深い繋がり（きっかけから現在まで）」と題して近江・守山の水度天神宮や水度神社の由緒など新しい話と古い話を織り交ぜて約1時間半、クイズも交えて熱くお話をされました。

水田宮司の講演をご紹介します。

## 水田宮司の講演

講師の水田清比古氏は「41年間府立高校の教師をしていました。今は水度神社の宮司を務めています。私の父も宮司をしており、江戸時代には寺田の中島家と水田家、両家が水度神社の宮司をしていました。」と自己紹介をされ、講演の本題に入られました。

水度、また水度、水主など城陽には水にまつわる地名が多くみられます。富野の荒見神社は荒水が転訛したものと言われているので、水に関係していると言えるでしょう。水渡坂のあたり湿地帯で岬のようになっていたなどと称されることもありますので、水を調整する役割を持っていたのではないかと思います。また、水度神社の特徴は古いということとともに境内社が多い、ということがあります。10の境内社があり市内の神社でも群を抜いています。

## 近江（守山市欲賀）の水度天神宮

近江の水度天神宮については、昨年の9月に守山市欲賀（ほしか）から水度天神宮の氏子さんが水度神社を訪ねてこられました。その折に見せて頂いた「水度天神宮由緒」には御祭神は高皇産零神（たかみむすびのかみ）と和田津美豊姫命（わだつみとよたまひめのみこと）の2神とされ、弘安5（1282）年に近江国に移住されさらに約100年後に野洲郡の欲賀郷に移住、祖先より伝わる「護神水度天神宮の分神」を浄光寺境内に祠を建て崇拝。明治に入り「寺田同族等」が42年4月に遷座して今に至るとされています。古い昔に分祠されています。古い記録を探し、氏子の方にもお聞きするなどいろいろと調べました。また、守山の水度天神宮も訪問しました。欲賀のお社は水度神社と瓜二つだと思いました。石の鳥居や燈籠があり、社標の位



講師の水田宮司